

令和5年3月3日

令和4年度 府中市立府中第七中学校 学校経営報告

府中市立府中第七中学校

校長 荒川 徳子

1 今年度の重点取組目標と自己評価

【学習指導】

①授業規律の徹底

〔自己評価〕

授業規律は年度当初の指導が大切である。その点でしっかりとした指導は行ってきた。授業規律については1年間崩れることがなかった。静かに授業を受けているが、活発な意見交換などが行われていたかに関しては課題が残る。

②基礎・基本の確実な定着を図るため授業開始5分間の帯活動を実施する。また毎時間「ねらい」を明示するとともに、1時間の見通しをもたせ、「まとめとふりかえり」の時間も確保し、わかりやすい授業を行う。(生徒アンケートの肯定的評価が85%以上)

〔自己評価〕

5分間の帯活動は5教科とも行っている。その成果は徐々に表れている。「ねらい」「流れ」を明示することはできている。「まとめとふりかえり」の時間が確保されていないこともあり、授業の組み立て方の工夫、授業改善の必要性も感じる。生徒の肯定的評価が昨年度より、若干高くなった。保護者は「わかりやすい授業をすすめている」に関しては昨年度より低くなり、令和2年度並みとなった。

アンケート項目	生徒	保護者
学校はわかりやすい授業を進めている(R4年度)	96.7	75.9
学校はわかりやすい授業を進めている(R3年度)	95.9	80.2

③「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。

〔自己評価〕

生徒は肯定的な評価が昨年度より高くなっているが、授業観察をする限り、まだ教員の教えこみ、一方的な講義形式の授業が見受けられる。

授業改善に向けた取り組みを来年度実施する必要がある。

アンケート項目	生徒
話し合う活動や発表する機会のある授業を行っている(R4年度)	96.7
話し合う活動や発表する機会のある授業を行っている(R3年度)	91.8

- ④「言語技術」を各教科で生かす。

〔自己評価〕

昨年度より始めた「言語技術」であるが、少しずつ生徒に定着してきている。各教科での成果はまだ測れないが、入試での面接においては確実にその成果が出てきている。

- ⑤数学科、英語科において習熟度別少人数授業を実施し、生徒の学習状況に応じた、きめ細やかな学習指導を行う。(生徒アンケートの肯定的評価が80%以上)

〔自己評価〕

昨年度より生徒も保護者も評価が下がっている。教科内での指導方法等の意見交換などを積極的に行うことが求められている。一人一人の力を見極め、個別最適な学びをさせることが大事である。

アンケート項目	生徒	保護者
学校は「一人一人の生徒に応じた指導」に努めている(R4年度)	93.9	67.2
学校は「一人一人の生徒に応じた指導」に努めている(R3年度)	95.9	72.8

- ⑥家庭学習の定着を図る。毎日「学習マラソン」を記入させ、家庭学習の時間の確保を図る。

〔自己評価〕

毎日「学習マラソン」を記入させることによって、昨年度より家庭学習の習慣が身についたと考える。しかしながら、その時間はとても中学生の学習時間とは思えない生徒も多い。引き続き「学習マラソン」を実施するが、そのやり方、活用方法の工夫改善を図らなくてはならない。

アンケート項目	生徒	保護者
私は家庭学習の習慣が身に付いている(R4年度)	57.4	55.2
私は家庭学習の習慣が身に付いている(R3年度)	53.1	51.9

- ⑦評価基準と評価計画を4月中に作成し、配布するとともに、生徒への丁寧な説明を行う。(保護者アンケートの肯定的評価が80%以上)

〔自己評価〕

若干昨年度より低くなった。生徒への丁寧な説明を年度当初に行うとともに、学期末にも行う。

アンケート項目	保護者
学校は評価・評定を適切に行っている。(R4年度)	85.6
学校は評価・評定を適切に行っている。(R3年度)	88.0

- ⑧朝読書で、学年の発達段階に応じた選書が自らでき、読書に親しむ態度を育成する。

〔自己評価〕

年間を通じて朝読書に取り組みさせることにより、読書に親しむ態度は育成された。しかしながら図書室で本を借りる人数がまだ少ないと感じる。司書と連携し魅力ある図書室にし、誰でも借りられるような雰囲気作りから始める。

⑨ICT 機器の有効的な活用を行う。

〔自己評価〕

教員は昨年度より ICT 機器を使用しての授業は増えた。しかし、なぜここで使うのか、使う意義を理解した上で効果的に活用することだ。ICT 機器を使うことが目的にならないよう心がけることが大切である。

【道徳】

①「考える道徳」「議論する道徳」を取り入れた授業改善を図る。

〔自己評価〕

「考える道徳」は定着してきているが、教員の力量によるところが大きい。そのため、今年度は道徳についての研修を 2 回実施した。その成果が出るのは来年度以降だと考える。

②道徳科の全体計画、年間指導計画に基づき全教員で授業を行う。(2学期からローテーション)

〔自己評価〕

2学期からローテーションを行い、全教員が道徳を実施することができた。全教員の授業力向上にもつながり、生徒にとってもプラスに働いている。

③道徳科の授業を要として、自他の生命を尊重し、思いやりの心をもって他者と接する態度をはぐくみ、「いじめ防止」「命の大切さ」に関する授業を実施する。

〔自己評価〕

内容項目「生命尊重」「思いやり」を中心に授業を行った。また意図的に他者に対する思いやりの心を育む授業を実施した。

④道徳教育推進教師を中心として、5月までに道徳授業地区公開講座の計画を立て、公開授業の協議会の工夫・改善を図り、学校・家庭・地域社会が一体となった道徳教育を推進する。

〔自己評価〕

9月に道徳授業地区公開講座を開催し、コロナ禍ではあったが、多くの保護者の方が協議会に参加され、意見交換を行い、充実したものとなった。

【生活指導】

①生徒の自己肯定感、自尊感情を高める活動の実施。(生徒アンケートで肯定的評価が70%以上)

〔自己評価〕

意図的・計画的に諸活動を行うことができなかったが、日々の生活の中で褒める教育を心掛けた。昨年度に比べて若干評価が下がっている。

アンケート項目	生徒
先生は生徒をよく理解し、一人ひとりを大切にしてくれている（R4年度）	93.4
先生は生徒をよく理解し、一人ひとりを大切にしてくれている（R3年度）	93.9

- ②教職員が率先して、生徒に「おはよう」「こんにちは」「さようなら」の声掛けをし、気持ちの良い挨拶ができる生徒を育成する。（生徒アンケートで「気持ちの良い挨拶ができる」で85%以上）

〔自己評価〕

昨年度より生徒、保護者共に肯定的な評価が増えている。朝の挨拶などを見ても明らかに生徒の挨拶は良くなっている。校内での挨拶もさりげなくできるようになっている。さらに爽やかで礼儀正しい挨拶を目指す。教員の挨拶もさわやかさを目指す。

アンケート項目	生徒	保護者
私（お子さん）はしっかり挨拶をしている（R4年度）	93.9	87.4
私（お子さん）はしっかり挨拶をしている（R3年度）	84.2	86.8

- ③毎日一人一人に声掛けするとともに、休み時間なども生徒の様子をよく観察するとともに、情報の共有を図る。

〔自己評価〕

意図的に声掛けをするようにしていた。しかしなかなか全員と話すことは難しい。様々な時間を使って声掛けし、変化を迅速にキャッチできるようにする。

- ④「いじめ防止等対策基本方針」「いじめ防止等対策方針細目」に基づき、「いじめは許さない」という基本認識を徹底し、学校・家庭・地域・教育委員会と一体となり、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解決をする。（生徒アンケートで「いじめ発生」1%以下）

〔自己評価〕

生徒アンケートでは1%以下である。今後も未然防止、早期発見、早期対応、早期解決を心掛ける。

- ⑤学校不適応や不登校の生徒については、週一回の委員会で、対応策を立てる。また関係諸機関との連携も図る。

〔自己評価〕

不登校生徒が増加している。その原因もよくわからないことが多い。関係機関と連

携を図っている所ではある。来年度は「サポートルーム」を有効活用する。

- ⑥命を大切に教育の一環として、長期休業前後の相談体制を確立し、家庭・地域と連携した見守り体制を構築する。また、生徒に様々な困難やストレスへの対処方法を身に付ける、SOS の出し方、心の保持に係る教育を推進する。

〔自己評価〕

特別活動や道徳を中心に行った。生徒が担任だけでなく、誰にでも相談できる雰囲気になっている。

- ⑦「SNS 東京ノート」の活用、関係諸機関と連携したセーフティ教室の実施を通して、SNS の正しい知識やモラルについて指導の徹底を行い、未然防止を図る。

〔自己評価〕

SNSトラブルは発生したがその都度対応し指導を行った。セーフティ教室を今後も継続して行っていく。

【進路指導】

- ①3年間を見通したキャリア教育の系統的な指導を行う。

〔自己評価〕

3年間を見通したキャリア教育は実施している。今年度は職場訪問の範囲を拡大して行った。来年度は職場体験が復活するため、これから職場の開拓もしていく必要がある。

- ②ハローワークや地域の人材、高校の教員など、外部の教育力を年2回以上活用する計画を立て、実施する。

〔自己評価〕

ハローワークの有効活用はどの学年でもできた。また今年度新たに高校の先生に高校の授業をしていただき、進路についての関心を高めることができた。

- ③ライフスキル教育の実施

〔自己評価〕

今年度は講師を管理職が務めた。生徒が意欲的に取り組み、満足した生徒が9割以上だった。また夢をもって卒業する生徒がふえ、面接についてもその成果が出た。

【特別活動】

- ①学級活動における話し合い活動を意図的に設定する。

〔自己評価〕

全クラス話し合い活動を意図的に設定していた。

- ②健全なリーダーを意図的に育成する。

〔自己評価〕

なかなか健全なリーダーが育成できない。教員の働き掛け、意識を高める必要がある。

- ③生徒一人ひとりが意欲的に実践する生徒会活動の充実を目指し、生徒会が企画したボランティア活動や挨拶運動などに主体的に参加しようとする意欲を育てる。(生徒アンケートで「ボランティア活動の参加」が全体の70%以上)

〔自己評価〕

今年度はボランティア活動も活発に実施することができた。参加率が若干下がっている。学年が上がるにつれて参加率は高まっている。

アンケート項目	生徒
私はボランティア活動に積極的に参加している(令和4年度)	77.9
私はボランティア活動に積極的に参加している(令和3年度)	81.6

- ⑤学校行事等を通して、生徒主体の体験的な活動を充実させ、生徒に主体的・実践的な態度、互いに協力する態度を育成し、自己を生かす能力や集団への所属感・連帯感を育む。

〔自己評価〕

体育大会、合唱コンクールを実施することができ、3年生を中心に主体的に活動することができ、一体感が生まれた。

- ⑥部活動指導で、生徒の資質・能力の伸長を支援するとともに、顧問の教員、指導者が体罰や不適切な指導がなく、顧問と生徒、生徒同士の信頼関係を深める。部活動保護者会において、保護者に部活動の意義を説明し、顧問と協力し合う部活動にする。

〔自己評価〕

今年度はほぼ正常に活動することができた。顧問と生徒の関係も良好な部活が多い。

アンケート項目	生徒
私は部活動に前向きに取り組んでいる。(令和4年度)	85.7
私は部活動に前向きに取り組んでいる。(令和3年度)	87.8

【特別支援教育】

- ①アセス(学校適応感)を年2回実施し、生徒の実態を把握するとともに、一人一人に応じた支援をする。

〔自己評価〕

アセスを2回実施し、実態把握に努め、スクールカウンセラーとも連携した。

- ②特別支援委員会を週1回開催し、特別な支援を要する生徒の対応を検討し、方策を全教員に共通理解を図り対応する。

〔自己評価〕

今年度から拠点校になったので、様々な生徒の対応をきめ細かくすることができた。

- ③教育環境のユニバーサルデザイン化を推進し、生徒が授業に取り組みやすく、学びやすいようにする。

〔自己評価〕

「ねらい」「流れ」を明記し、ユニバーサルデザイン化が浸透している。次年度は他の教室環境の整備にも務める。

【保護者・地域・小学校との連携】

- ①スクールコミュニティ協議会の充実を図り、地域の教育力を活用し、教育活動を充実させる。

学校の自己点検及び自己評価を年 2 回行い、保護者・地域への説明責任・結果責任を果たす。

〔自己評価〕

協議会も開催することができ、授業参観も実施することができた。協議会において様々な意見をいただき、参考になった。そのことを今後に生かす。学校評価アンケートも 2 回実施し、その結果も学校だよりで公表した。

- ②青少年対策第 7 地区委員会と連携し、教職員と生徒がスポーツや文化活動、地域行事などに年 1 回以上積極的に参加する。

〔自己評価〕

今年度も地域清掃を実施することができた。地域の行事も復活してきており、様々な場面で生徒が活躍することができた。

- ③教員間・児童生徒の交流や連携を図る。

〔自己評価〕

今年度も挨拶運動は実施した。マンネリ化も否めず、方法、目的など考える時期にきている。

【学校運営】

- ①適切かつ有効な予算執行を図る。

〔自己評価〕

事務と連携を図りながら適切に予算執行を行った。

- ②教職員の服務事故が起きない職場環境づくりを行うとともに、月 1 回の服務事故防止研修を実施する。

〔自己評価〕

服務事故防止研修を実施してきた。

- ③働き方改革を進める。

〔自己評価〕

以前より退勤時刻等早くなった面もあった。

2 次年度以降の課題と対応策

【学習指導】

学力向上に向けて教員の授業力向上を図ること。

⇒専門家に授業を参観していただき、指導を仰ぐ。

家庭学習の定着の推進を図ること。

⇒「学習マラソン」の有効活用

言語能力の向上

⇒言語技術の継続

ICTの有効活用の方法を探ること。

⇒ICTを使用する場面の設定

個別最適化の学びの充実を図ること。

⇒一人一人にあった学習。(eライブラリの有効活用) 放課後学習教室

【道徳】

「議論する道徳」の活性化を図ること。

【生活指導】

居心地の良い学級・学年・学校づくり（アセスメントの活用）

気持ちの良い挨拶（全教員での声掛け）

自己肯定感を高めさせる活動の継続・発展

共通理解された生活指導の徹底

【進路指導】

キャリア教育の充実（計画的な実施と外部講師の活用）

人間関係形成能力、課題解決能力の育成

【特別支援】

一人一人を大切にした指導（全教員による共通理解）

【保護者・地域・小学校との連携】

積極的な小学校との連携（生徒・教員の交流）

【学校運営】

働き方改革の実施（文書、教材の共有化。定時退勤の推進）